

令和2(2020)年度入学試験問題出題のねらい・解答例 (学校推薦型選抜)

中村学園大学〔栄養科学部 フード・マネジメント学科〕

【小論文】

〈出題のねらい〉

栄養科学部フード・マネジメント学科は、理系科目の食品科学・栄養科学の知識を基礎として、食ビジネスに貢献できる人材養成を主目的とする文理融合型の学科である。このため、毎年公表される様々な統計データを理解・分析する能力に加えて、食料や食ビジネスについて記述した様々な文章を理解・分析する能力が求められる。小論文を課す目的は統計データや文章が意味するところを正しく理解し、食料をめぐる様々な社会的事象や考え方の背景を推論できるかどうかを判定することである。このようなことから、本年度の学校推薦型選抜の小論文においては、図表を読み取って指示に従って記述する問題のほか、文章を読み解き、その著者の考え方等を整理して解答する問題を出題した。

本学科を志望する学生は、普段から食料の生産から消費、栄養摂取、健康、ならびに安全管理にわたる幅広い領域における動向やその本質に関心を持ち、新聞やニュース等から得ることができる情報に対して、自身としての考えを持つ習慣をつけておくことが望ましい。

小論文その1は、代表的な遺伝子組換え農作物であるトウモロコシ、ダイズ、ナタネの3品目に関するわが国への輸入状況及び輸入港周辺地域におけるナタネ類の生育状況に関する経年的データから、遺伝子組換え農作物への依存度の現状を理解するとともに、遺伝子組換え農作物の環境への広がり进行分析する問題である。わが国では、遺伝子組換え農作物の安全性を確保するための取り組みの一つとして、生物多様性への影響について科学的な評価による安全性の確認を行なうたうえで、輸入・流通させています。

問1は、表1中の数値を読みとって、設問の指示にしたがって遺伝子組換え農作物の推定輸入量並びにそれらの割合を計算する問題である。問2は、図1に示されたナタネ類の生育状況の経年的変化の追跡が、遺伝子組換え農作物の安全性の確認においてどのような意義をもつのかを選び出す問題であり、問3は、輸入港周辺地域におけるナタネ類の生育群落数のデータから、遺伝子組換えセイヨウナタネの生育の広がり状況を判断する記述問題である。

問3の採点で重視したことは次の3点である。第1は、図中のモニタリング期間を通して、ナタネ類の個々の植物の生育数の相対的な変動を正しく把握した記述となっているか否か。第2は、指定されたキーワードを用いて、主語・述語が明確な文章になっているか否か。第3は、誤字や脱字がなく適切な文章表現により定められた文字数の範囲で客観的に記述できているか否か、である。

小論文その2は、食生活が変化し、食の外部化が進展することにともない社会問題となっている食の安全に関する文章を正確に読み解き、設問に応じて文章を要約できる力を主に問う形式とした。また食の外部化の傾向が顕著にあらわれているのが、調理食品など中食の市場規模の拡大である。このため弁当などの調理済みの食品を買って持ち帰り、職場や家庭などで食べる中食に関して考える力も問うた。

問1は、この文章の著者が、食の外部化の傾向が今後とも続くと予想している4つの根拠を的確に読み取り、制限字数内で過不足なく要約できるかどうかを判定した。ここでは、設問で指示したように、「本文の論旨に沿って」解答することが必要であり、自分自身の感想や意見を求めていない。

問2は、「主食的調理食品」に該当する品目を選択する問いであるが、これは知識問題ではない。調理食品がそのまま食べられる調理済み食品であること、主食が米、小麦など穀類を主とした食品であることを理解していれば、主食的調理食品が、米、パン類、麺類などを含み、かつ調理済み食品であることを類推することは可能であろう。「乾うどん・そば」と「米」は、“ゆ

でる”、“炊飯する”という調理が必要であることから調理食品に該当せず、また「学校給食」は外食に分類される。

問3は、食の安全管理の観点で取り組むべき課題と対応策に関する著者の論旨を正確に把握したうえで、管理技術を高度化する能力と従業員の能力向上や管理体制を整備する能力の両方が必要とされていることを適切な文章として制限字数内で記述できているか否か、を判定した。

〈模範解答例〉

(その1)

問1 a) 88.7 b) 3,015 c) 89.5 d) 89.7

問2 ③

問3 カラシナ及び遺伝子組換えセイヨウナタネの生育群落数は、経年的に増加しているとは言えない。このことから、遺伝子組換えセイヨウナタネの生育の広がり認められない。(79字)

(その2)

問1 女性の社会進出の拡大、時間の機会費用の増加、より手の込んだ食事や食べたことのない食事の追求、家庭内での調理よりも効率的な調理の実現などが考えられるから。(76字)

問2 (2)、(5)、(6)

問3 課題は、危害要因が食品に混入することを防ぐことである。対応策は、冷蔵冷凍、在庫管理、情報処理などの管理技術を高度化するとともに、それに関わる要員の技能とモラル、またそれを運営するシステムのデザインを良好に維持することである。(112字)